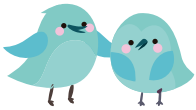
英語再生ことわざハンドブック

SHAPE
IDEAS
INTO
SHAPE

大妻女子大学 文学部 英語英文学科
APPT (Anti-Proverb Project Team) 編集

目次



はじめに …… 02

第1章 英語のことわざ
- 第1節 ことわざと文化 …… 03
- 第2節 ことわざと意味 …… 04
- 第3節 ことわざと音声 …… 05

第2章 英語のパロディ
- 第4節 Keep Calm and Carry On …… 06
- 第5節 Super Soul Sunday …… 07
- 第6節 Cheers for Scrooge! …… 08

第3章 再生の原則
- 第7節 再生のパターン …… 09
- 第8節 置き換えの技法 …… 10
- 第9節 定型表現の展開 …… 11

第4章 ことわざの多様性
- 第10節 It's no use crying over spilt milk …… 12
- 第11節 An apple a day keeps the doctor away …… 13
- 第12節 Out of sight, out of mind …… 14

第5章 再生の実践
- 第13節 ハンガリーの大学生による実例 …… 15
- 第14節 新聞雑誌広告における実例 …… 16
- 第15節 Harry Potter の中の実例 …… 17
- コラム 制作のヒント …… 18

第6章 ことわざのアナロジー
- 第16節 薬とことわざ …… 19
- 第17節 古民家とことわざ …… 20
- 第18節 お守りとことわざ …… 21
- 第19節 四つ葉のクローバーとことわざ …… 22

はじめに

再生ことわざ（*anti-proverb*）とは、現行のことわざの一部を変換して創られた新たな表現を言います。再生ことわざは、好事家の慰み物ではありません。書籍・新聞・雑誌・映画・漫画など、至る所に見出すことができます。この小冊子の目的は、再生ことわざのしくみとはたらきを、英語学習者（大学受験レヴェル）に解説することです。

第１章では、文化・意味・音声の観点から、現行のことわざの根底にある原則を提示します。この原則は、ことわざを再生する際も有効です。第２章のテーマはパロディ（*parody*）です。これは、何かを作り変え、風刺やユーモアを生み出す行為を言います。再生ことわざは、現行のことわざのパロディと捉えることができます。

第３章では、再生ことわざを制作するための技法を説明します。音声・意味・構文に渡り、綿密な修辞的技巧が駆使されることが示されます。第４章では、現行のことわざに、「意味は同じで形式が異なる」場合があることを確認します。一方、再生ことわざは、「形式は同じで意味が異なる」場合と考えることができます。

第５章では、再生ことわざの具体例を検討します。英語を第２言語として学ぶハンガリーの大学生の作品、アメリカの新聞雑誌広告に掲載された実例、*Harry Potter* に散見される事例を観察します。章末のコラムでは、ことわざを再生するために有効と思われる、さまざまな辞書やウェブサイトを紹介します。

古代ローマの建築家は、水と音が遠心的に進むこと、および、障害物に衝突するとはね返ることに基づき、劇場の音響設計を行いました。既知の知識（＝水）を応用し、未知の性質（＝音）を推量する思考法を、アナロジー（*analogy*）と言います。第６章では、アナロジーを援用し、ことわざの本質および目的に迫ります。

第１節　ことわざと文化

ロンドンのパブに入って驚くのは、イギリス人男性の多弁です。ビール片手に相手の顔を直視して長時間語り合います。声量は高くはないものの、彼らの声はさざ波となって店外にまで溢れ出します。彼らは、自説を主張し合うことを良しとし、それを喜びとしているのです。これは、イギリスのみならず古代ギリシャ・ローマの雄弁術の伝統を受け継ぐ欧米に共通する価値です。

英語には、*The squeaky wheel gets the grease.*（キーキー音を立てる車輪は油をさしてもらえる）ということわざがあります。他にも、明快な主張を勧める *Call a spade a spade.*（曖昧に言わずはっきり言え）、*Don't beat around the bush.*（遠回しに言うな）、*Words cut more than swords.*（言葉は剣よりもよく切れる）などは、言葉による主張を尊重する価値観を表しています。

一方、日本には寡黙を良しとする伝統があります。道元が食事をする者の心構えを記した『赴粥飯法（ふしゅくはんぽう）』には、「食事中は話をせずに食べることに集中せよ」とあります。欧米とは対照的な多弁を戒める気風はその後も受け継がれ、ことわざにも表われています。「以心伝心」（言葉ではなく心と心で通じ合うことこそ尊い）、「雉も鳴かねば撃たれまい」（きじは鳴きさえしなければ居所を知られず撃たれることもなかろう）、「巧言令色鮮仁」（言葉巧みな者には誠実な人間が少ない）、「鳴かぬ猫は鼠を捕る」など。

ことわざは、望ましいと考える行動様式、すなわち文化を映し出す鏡のような存在なのです。

伊東　武彦（いとう たけひこ）

Position　教授
Field　英語教育学
異文化間コミュニケーション

第２節　ことわざと意味

英語のことわざは、短い簡潔な表現で、この世の真理や生き方の知恵、教訓など、実に様々な、深いメッセージを伝えます。それでは、どのような表現を、どのように工夫することで、多彩な意味の世界が表わされるのでしょうか。ことわざにみられる特徴や技法には様々なものがありますが、ここでは、**比喩**、**対比**、**逆説**について紹介します。

多くのことわざでは、**比喩**が用いられています。ある事柄を別の事柄にたとえる**比喩**は、ことわざの最も基本的な表現方法といえるでしょう。例えば、*The pen is mightier than the sword.*（ペンは剣よりも強い）は、「言論は武力に勝る」という意味です。ここでは *the pen* が「言論」を、そして *the sword* が「武力」を、（それぞれ連想されやすいものとして）表わしています。**比喩**を用いることにより、このように表現がわかりやすくなり、またおもしろさも加わるのです。

ことわざでは、しばしば反対または対立的な意味の語を**対比**させて表現することがあります。例えば、*Speech is silver, silence is golden.*（雄弁は銀であり、沈黙は金である）では、*speech* と *silence* という対立する二語、さらに *silver* と *golden* という並び比べられる二語をバランスよく**対比**させながら用いています。また、例えば *No news is good news.*（便りのないのは良い便りだ）のように、矛盾しているようで、実は真理を表わす**逆説**の手法もよく用いられます。このようなインパクトのある印象的な表現により、ことわざが表わす意味の世界が、生き生きと心に響いてくるのです。

江連　和章（えづれ かずあき）

Position 教授
Field 英語意味論・語用論

第３節　ことわざと音声

英語のことわざには、音読すると語呂が良いと感じるものが多くあります。ことわざには英語の音声特徴がよく現れているからです。ここでは**脚韻**、**頭韻**、**リズム**について紹介します。

まず**脚韻**ですが、これは音節内において、母音とその後ろに来る子音を同一にすることで響きを良くする手法です（「音節」とは母音を中心にした音の単位のこと）。例としては、*Haste makes waste.*（急ぎは浪費の元）や *An apple a day keeps the doctor away.*（日にりんご一つで医者いらず）があります。前者の例では *haste* /heɪst/ と *waste* /weɪst/ で /eɪst/ が、後者の例では *day* /deɪ/ と *away* /əweɪ/ で /eɪ/ が同一です。

頭韻は同じ子音で始まる単語を連ねることを指し、音読した際に統一感が出ます。例としては *Look before you leap.*（跳ぶ前に見よ）や *Practice makes perfect.*（練習することで完璧になる）が挙げられます。下線部分が同一の子音です。

最後に**リズム**です。英語のリズムは「強弱のリズム」であり、ことわざでは「強」と「弱」が交互に繰り返されるように単語を配置することでリズムが生まれます。「強」が先で「弱」が後に来る「強弱リズム」と、その逆の「弱強リズム」の２種類があります。強弱リズムでは ***MA**ny a **LI**ttle **MAKES** a **MI**ckle.*（塵も積もれば山となる）のような例があり、これを「強」を「●」、「弱」を「•」で表すと「●••●•●•●•」となります。弱強リズムの例としては、*A **FRIEND** in **NEED** is a **FRIEND** in**DEED**.*（まさかの友が真の友）が挙げられ、リズムパターンとしては「•●•●••●•●」となります。

新谷　敬人（しんや たかひと）

Position　教授
Field　音声学・音韻論

第４節　Keep Calm and Carry On

イギリスを訪れたことがある方なら、一度はこのフレーズを目にしたことがあるでしょう。今やお土産ショップの定番商品として、*Keep Calm and Carry On*（落ち着いて、普段通りに過ごしなさい）と印字されたマグカップやポスターを見かけない日はありません。

このフレーズは、第二次世界大戦中に国民の士気を高めるために作成されたポスターの文言でしたが、2000 年頃に書店で再発見されると評判を呼び、全国で販売されるようになりました。その人気を物語るのはパロディの多さです。例えば、*Keep Calm and Make Tea*（落ち着いて紅茶を入れなさい）や *Keep Calm and Eat Cupcakes*（落ち着いてカップケーキを食べなさい）など、枚挙に暇がありません。現在では、このフレーズのパロディが量産されていることを揶揄した *Keep Calm and This Poster is Getting Old*（落ち着いて、このポスターは流行遅れになっている）など、パロディ現象そのものをパロディ化するという二重のパロディも生まれています。

この絶大な人気の秘密は、イギリス人にとっての親しみやすさでしょう。*Keep Calm* や *Carry On* というフレーズは日常的にイギリス人が使うものです。そして、誇り高きイギリス人が抱く、如何なる時も冷静沈着な自国民のイメージを喚起し、共感を呼んだというのも大きな要因だと考えられます。

このように、パロディはユーモアを通して、その国の歴史や国民性の一端を知る手がかりにもなるのです。

早川　友里子（はやかわ　ゆりこ）

Position　専任講師
Field　19 世紀ヴィクトリア朝小説

第５節　Super Soul Sunday

スポーツの国アメリカでは、アメリカンフットボール（アメフト）が大人気です。プロリーグである *NFL* の優勝チーム決定戦は毎年２月上旬の日曜日に行われ、1967 年の開始以来、男性的なアメリカ文化を象徴する巨大イベントになっています。「スーパーボウルサンデー」*(Super Bowl Sunday)* と呼ばれるこの特別な日曜日には、全国あちらこちらで家族や友人がテレビの前に集まって試合観戦が行われ、中継するテレビ局が年間の最高視聴率を記録することも珍しくありません。

2011 年にメディア界の女王オプラ・ウィンフリーが自分自身のテレビネットワークを立ち上げ、新番組を始めた際に「スーパーソウルサンデー」*(Super Soul Sunday)* という名前を付けたのは、明らかにスーパーボウルのパロディです。大切な人たちと集う日曜日にみんなに選ばれる番組にしたいという意図がうかがえるだけでなく、三語とも *S* で始まるため耳にも心地よく響きます。そしてまた、ソウルとは魂のこと。みんなでテレビを観るという経験が、楽しいだけでなくてスピリチュアルな深みのあるものになって欲しい、というウィンフリーの願いが込められています。実際このトークショー番組は、視聴者が自分自身を見つめ、より良く生きていくためのヒントとなるようなインタヴューを毎週放映しています。

このように、パロディは、オリジナルの言葉に対するリスペクトを表現するだけでなく、オリジナルを乗り越えてさらに良いものを創造したいという意味を込めて使われる場合があるのです。

石川　千暁（いしかわ ちあき）

Position　専任講師

Field　アフリカ系アメリカ文化・文学

第６節　Cheers for Scrooge!

We can't imagine eating Christmas cake bought on December 26th. A parody is a playful response to an original work that has become stale. In order to appreciate a parody, one must know its original.

The original Christmas story is from the Bible, featuring a diverse cast: the virgin mother and her baby boy Jesus, visited by angels, shepherds and wise men. The fearsome king Herod often has no place in this legend.

The most famous story to come from the first Christmas has been Charles Dickens' A Christmas Carol. King Herod is taken out of the shadows and made the central character as Scrooge the miser. The name "Scrooge" sounds like a screw and can be imagined as "squeeze" and "crush". Ghosts visit Scrooge in his dreams and escort him on time travels to the past, the present, and a dark future. Scrooge awakes in a fright and his desire for life transforms him into a cheery old man who gives away happiness and money in Christmas cheer, shouting "Merry Christmas".

Parody makes people wonder why should they take life so seriously. Parody can be extreme, but it wakes people up to laugh and enjoy life.

Ken IKEDA

Position　Professor
Field　Teaching English to Speakers of Other Languages
Asians' English Identities as Learners and Users
Media Depiction of Asians

第７節　再生のパターン

再生ことわざは、既存のことわざの一部を他の要素に替え、新しいことわざを作ることを意味します。その場合、以下の３つのパターンがあります。

置き換えは、ことわざ内のある要素を別な語に変えることです。①一語の置き換え。*Blood is thicker than water.*（血は水より濃い）→ *Love is thicker than water.*（愛は水より濃い）②二語の置き換え。*To err is human, to forgive divine.*（過ちを犯すのは人、許すのは神）→ *To err is unlikely, to forgive unnecessary.*（過ちを犯すのはありそうにない、許すのは不必要）③節の置き換え。*Don't bite the hand that feeds you.*（食事を出してくれる人の手を噛んではならない＝恩をあだで返してはならぬ）→ *Don't bite the hand that looks dirty.*（汚そうな手を噛んではならぬ）

入れ替えは、ことわざ内の要素を交換することです。①動詞の交換。*Look before you leap.*（跳ぶ前に見よ）→ *Leap before you look.*（見る前に跳べ）②名詞の交換。*Money can't buy happiness.*（お金では幸せは変えない）→ *Happiness can't buy money.*（幸せではお金は買えない）③副詞の交換。*Better late than never.*（何もしないより遅い方がまし）→ *Better never than late.*（遅いより何もしない方がまし）

組み合わせは、２つのことわざを融合することを意味します。*Let sleeping dogs lie.*（寝ている犬はそのままにしておけ＝寝た子は起こすな）と *A barking dog never bites.*（吠える犬は噛まない）が結合すると、*A sleeping dog never bites.*（寝た犬は噛まない）ができます。さらに、*A penny saved is a penny earned.*（１ペニーの貯蓄は１ペニーの儲け）と *A rolling stone gathers no moss.*（転石苔生せず）が合体すると、*A penny saved gathers no moss.*（１ペニーの貯蓄は苔を生じない）ができます。

村上　丘（むらかみ たかし）

Position　教授
Field　統語論・文法論

第８節　置き換えの技法

前節では、再生ことわざに置き換え・入れ替え・組み合わせのパターンがあることを観ました。この節では、置き換えに焦点を当て、その具体的な事例を詳しく観察します。

第一は、置き換える際に**音声**の工夫が凝らされている場合です。*Silence speaks louder than words.*（沈黙は言葉よりも能弁である）→ *Absence speaks louder than words.*（欠席は言葉よりも能弁である）*silence* と *absence* は、*/-əns/* の脚韻を踏んでいます。 *Too many cooks spoil the broth.*（料理人が多いとスープがダメになる）→ *Too many clicks spoil the browse.*（あまり多くクリックすると、ウェブページがダメになる）*cooks* と *clicks* は、*/k-/* の頭韻を踏んでおり、語尾の子音 */-ks/* も共通です。*broth* と *browse* は */br-/* の頭韻を踏んでいます。

第二は、置き換える際に**意味**の技巧が凝らされている場合です。*Virtue is its own reward.*（徳はそれ自体が報酬である）→ *Virtue is its own punishment.*（徳はそれ自体が罰である）*reward*（報酬）と *punishment*（罰）が反義語です。*Where there's a will, there's a way.*（意思があるところに道は開ける＝精神一到何事か成らざらん）→ *Where there's a will, there's a relative.*（遺言状があるところに親戚がいる）*will* は多義語で、「意思」と「遺言」の２つの意味があります。

第三は、置き換える際に**音声**と**意味**の両面の工夫がなされている場合です。*Haste makes waste.*（慌てると損をする）→ *Taste makes waist.*（おいしい物を食べると腰回りに贅肉がつく）*haste* と *taste* は */-eɪst/* の脚韻を踏んでいます。*waste*（消費）と *waist*（腰）は同音異綴り異義語（同じ発音、異なるスペル、異なる意味）です。*Time heals all wounds.*（時間は傷をいやす）→ *Time wounds all heels.*（時間はかかとを傷つける）*wound* が名詞用法から動詞用法に変化しています。さらに、*heal*（癒す）と *heel*（かかと）も同音異綴り異義語です。（村上）

第９節　定型表現の展開

定型表現とは、決まりきった慣用的表現のことです。この表現形式を使ったことわざは、二重の意味で生産的です。第一に、既存のことわざに様々な変種があります。第二に、これに基づいて再生ことわざが活発に作られます。数多い定型表現の一端を垣間見てみましょう。

[Every man has his …] *Every man has his delight.*（人にはそれぞれ楽しみがある）は、「蓼食う虫も好き好き」にあたります。*Every man has his price.*（どんな人でも、その人を買える値段がある）は、多額の金銭を出せばどんな人をも買収できる、という意味です。これを応用した再生ことわざが *Every man has his breaking point.*（どんな人間にも忍耐の限度がある）です。

[Nothing…but…] *Nothing is certain but death and taxes.*（死と税金以外、確実なものはない）や、*Nothing is certain but the unforeseen.*（予想外のことを除き、人生に確実なものはない）があります。ここから生まれたのが、*Nothing is certain but uncertainty.*（不確実以外に確実なものはない）という再生ことわざです。*certain* は形容詞、*uncertainty* は名詞ですが、両者は *uncertain* を介して反義関係にあります。

[It's better… than…] *It's better to be a master than a servant.*（召使よりも、主人になる方が良い）や、*It's better to travel hopefully than to arrive.*（目的地に着くことよりも、着くことを夢見ているときの方が楽しい）があります。これを応用した再生ことわざが *It's better to burn out than to fade away.*（色あせるよりは燃え尽きる方がましだ）です。ここでは、*burn out/fade away* という句動詞が対比されています。

ことわざ辞典には、様々な定型表現が繰り返し現れます。ことわざを再生するには、それを利用すると便利です。定型表現を見つけ、それを応用することを推奨します。（村上）

第 10 節　It's no use crying over spilt milk

植物を分類する際、変種 (*variety*) という言葉が使われることがあります。原種との形態的差異があり、地理的に分布の異なる個体群を指します。アブラナ科の場合、ラパは原種、アブラナ・カブ・コマツナ・チンゲンサイ・ハクサイ・ミズナは変種です。

ことわざも同じです。1つの言語形式は、それと同じ意味を持つ種々の変種 (*variant*) を有します。1つのことわざが、10 個以上の変種を持つ場合もあります。表題のことわざは、日本のことわざ「覆水盆に返らず」「後悔先に立たず」に相応します。その変種が (1) です。

(1) a. *Don't grieve over spilt milk.*

b. *Don't cry over spilled milk.*

c. *No weeping for shed milk.*

d. *There's no use to cry over spilled milk.*

なぜ、一つのことわざに色々な変種があるのでしょうか。ことわざは、かつて、すべて口伝えで伝達されました。話し言葉を伝える音声は、話されるや否や消滅し、記録が残りません。あることわざを耳にした人が、他者にそれを伝える場合、個性や記憶が影響し、その表現は原形と完全に同じには再現されません。それが次々と繰り返されると、原形との違いが拡大します。その結果、意味は同じでも表現形式（語彙・構文）に変異が生じ、一つのことわざに多彩な変種が生じます。

この現象は、ことわざに限りません。一般に、芸能は、口承で伝承されると変種を生じます。その典型が「シンデレラ」です。この童話は、はるか昔から知られており、アフリカ・アジア・インド・南北アメリカ・ヨーロッパに分布します。各々の地域によって差異はありますが、物語の基本構造（家族の崩壊＞援助者の出現＞宴会の設営＞花嫁テストの実施＞結婚の成就）は同一です。シンデレラ譚は、長期にわたる人類の移動に伴い、世界中に伝播したと考えられています。

第 11 節　An apple a day keeps the doctor away

これまで多くの医学研究者が、表題のことわざ（一日一個リンゴを食べると、医者いらず）に注目してきました。その結果、リンゴが悪玉コレステロールを減少させ、脳卒中を防止する効果があることが判明しました。マシュマロ会社がこの表現に着目し、可愛い子供が自社製品を手にしている広告に、次のようなスローガンをつけました。

(1) a. *A marshmallow a day makes your blue eyes bluer.*
（一日一個のマシュマロで、青い目は一層青くなる）

b. *A marshmallow a day puts a twinkle in your eye.*
（一日一個のマシュマロで、瞳がきらりと光る）

c. *A marshmallow a day puts a smile on your face.*
（一日一個のマシュマロで、微笑みが浮かぶ）

さらに、表題のことわざに基づき、膨大な数の再生ことわざが作られました。(2) は、その一端です。

(2) a. *A bike a day keeps the weight away.*
（一日一回自転車に乗ると、体重が減る）

b. *A potato a day could keep high pressure away.*
（一日一個ジャガイモを食べると、高血圧を防止できる）

c. *An onion a day keeps everybody away.*
（一日一個玉ねぎを食べると、皆が逃げる）

d. *An effort a day keeps failure away.*
（一日一回努力すれば、失敗しなくなる）

上記の例においては、[**x** *a day keep* **y** *away*] における **x**, **y** が、他の語に置換されています。(2) の各文は基本構造が同じなので、大本の姿（＝表題の英文）を容易に想起することができます。それは、一次関数（**y = ax**）と似ているかもしれません。なぜなら、**x** と **y** の値を変えても、グラフの傾きは一定だからです。ただし、両者には大きな相違があります。**y=ax** の場合、**x** の値が決まれば、一義的に **y** の値が決まります。一方、[**x** *a day keep* **y** *away*] の場合、**x** の語を定めても、**y** の語は一義的に決まりません。なぜならこの条件を満たす y には、複数の候補があるからです。そのどれを選ぶかで、作品の良しあしが決まります。

第 12 節　Out of sight, out of mind

重複（*reduplication*）とは、単語の一部あるいは全体を繰り返すことで、世界中の言語に見られる普遍的な現象です。たとえば、幼児語（*pee-pee*）・擬声語（*ding-dong*）・擬態語（*yum-yum*）・応答辞（*so so*）・間投詞（*ha-ha*）・名詞（*no-no*）・形容詞（*super-duper*）・副詞（*too-too*）・囃子言葉（*diddle diddle*）・呪文（*abracadabra*）などがあります。

表題のことわざは、要素の反復を伴うので、重複の一種と考えることができます。２つの句が文法的・語彙的に釣り合っているので、この構文を平衡構文と呼びましょう。その実例は以下の通りです。

現行のことわざ	再生ことわざ	再生の背景
(1a) Out of sight, out of mind.（去る者日々に疎し）	**(1b)** Out of sight, out of time.（見えなくなると調子も狂う）	Ally Carterの小説の題名
(2a) Once a beggar, always a beggar. (一度乞食になると一生乞食)	**(2b)** Once a dealer, always a dealer. (一旦証券マンになると生涯証券マン)	The Financial Market の合言葉
(3a) No pain, no gain. (苦労なくして成功なし)	**(3b)** No money, no honey. (お金がないと娯楽もない)	Fidlarの歌う曲名
(4a) Like father, like son. (この父にしてこの子あり)	**(4b)** Like grandfather, like grandson. (この祖父にしてこの孫あり)	C.V.M Smithの記す論文の題名
(5a) So many men, so many minds. (十人十色)	**(5b)** So many men, so little time.　(男性は大勢、時間は少し)	Mae Westの創作

平衡構文は、２つの重複句から構成されますが、句と句の間の論理関係は、一様ではありません。**(1a)** は、「もし何かが視界から離れれば、それは心から離れる」という＜原因・結果＞を表しています。**(4a)** は、「息子が父に似るのと同じように、父は息子に似る」という＜類比＞を表しています。**(5b)** は、「男性は多い一方、時間は少ない」という＜対比＞を表します。これ以外に、＜逆接＞や＜並列＞の関係もあります。平衡構文は素朴で単純な構造ですが、活発に再生ことわざを産出します。その点で、再生可能性（*recyclability*）の高い形式であると言えるでしょう。

第 13 節　ハンガリーの大学生による実例

Litovkina (Teaching Proverbs and Anti-Proverbs, 2018) は、ハンガリーにおける大学英語教育に、再生ことわざの実践活動を導入しました。本節では、彼女の受講生の作品の一部を紹介します。ただし、同書には、実例（現行のことわざと再生ことわざ）しか掲載されてないので、作品の特徴と作品に対する評価を追補します。

現行	Every dog has his day.（どの犬にも最盛期がある）
再生	Every dog has his tail.（どの犬にも尾がある）
特徴	dayとtailは母音/eɪ/が共通で、母音押韻 (assonance) を踏みます。
評価	現行のdog/dayは頭韻を踏みますが、再生のdog/tailに音声的関係がありません。現行は、「誰にも絶頂期がある」という含意を有します。再生は犬の形状をありのままに記しただけで、含蓄に欠けます。

現行	The early bird catches the worm.（早起きする鳥は虫を捕まえる）
再生	The early bird catches the cold.（早起きする鳥は風邪をひく）
特徴	catch coldという成句を活用し、ユーモアを意図しました。
評価	現行のbird/wormは母音押韻/ə:/を踏みますが、再生のbird/coldの間に音声的関係がありません。「風邪をひく」はcatch (a) cold が文法的で、定冠詞を用いたcatch the cold は異様です。現行は現実相を反映しますが、再生は非現実的で、早起きの美徳を揶揄するかのようです。

現行	Don't look a gift horse in the mouth.（贈答された馬の口の中を見るな）
再生	Don't look a crocodile in the mouth.（クロコダイルの口の中を見るな）
特徴	複合語gift horse を多音節語crocodile で置き換え、ユーモアを目論見ました。
評価	馬の歯の状態は、年齢を表します。その歯を見ることは贈り主に失礼なことから、現行は「貰い物にケチをつけるな」という教訓を含意します。一方、再生は、「火中の栗を拾うな」と言いたいのでしょうか。ワニの口を傍観するだけなら危険は伴わず、その行為を禁止する理由が不明です。

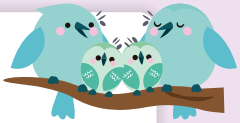
第 14 節　新聞雑誌広告における実例

広告制作者は、斬新な表現を編み出し、読者の関心を引こうと努めます。再生ことわざは、広告制作者にとって格好の表現手段です。なぜなら、読者は、無意識かつ主体的に再生ことわざを解釈しようとするからです。

広告主	The New York Times (アメリカの新聞社)
現行	Charity begins at home. (慈愛は家庭で始まる)
再生	Clarity begins at home.　(明晰さは家庭で始まる)
特徴	charity/clarity は共に3音節語で、綴り字も類似し、脚韻を踏みます。
評価	この文言の下に、with home delivery of The New York Timesと記されています。明晰さを標榜する新聞が、宅配により入手できることを伝えます。家庭教育の重要性を訴える効果があります。

広告主	Volkswagen (ドイツの自動車メーカー)
現行	Different strokes for different folks. (人が違えば好みも異なる)
再生	Different Volks for different folks.　(異なる人に異なるワーゲン)
特徴	strokes/Volks/folksは、すべて単音節語で、脚韻を踏みます。 Volks/folksは、語頭の子音が唇歯音で、酷似します。
評価	この文句の下に、スーパービートルとステーションワゴンのイラストと説明がついており、購買者の要望にかなう品揃えを例示します。自社名を織り交ぜ、現行よりも語調がよく、卓抜な作品です。

広告主	Bill Blass　(アメリカの女性ファッションブランド)
現行	Man cannot live by bread alone. (人はパンのみでは生きられない)
再生	Woman cannot live by diamonds alone. (女性はダイヤモンドだけでは生きられない)
特徴	manがwomanに、breadがdiamondsに置き換えられています。 有名な聖書の一節が原典だけに、制作者の腕の見せ所です。
評価	一読、「女性に何が必要か?」という疑問が生じます。この文言の下に、ダイヤのネックレスを手にした女性が、大きな香水瓶に寄り添うイラスト。その下に、社名とperfume for womenという文言が配置されています。スローガン>イラスト>解説の配列が、問い>答え>確認の認知に呼応し、巧みな構成です。



第 15 節　Harry Potter の中の実例

英国の作家 *J.K. Rowling* は、小説 *Harry Potter* シリーズの中で、再生ことわざを活用しています。彼女は、魔法の国の事物を用い、現行のことわざを巧みに変容させています。再生ことわざによって、魔界と俗界との連続性を暗示していると言えるでしょう。

現行のことわざ	再生ことわざ
It's no good crying over spilt milk.（こぼれたミルクを嘆いても仕方がない＝覆水盆に返らず）	It's no good crying over spilt portion.（こぼれた分け前を嘆いても仕方がない）
Where there is a will, there is a way.（意志のある所に道がある）	Where there is a wand, there is a way.（魔法の杖があれば、方法がある）
There's more than one way to skin a cat.（猫の皮をはぐには2つ以上の方法がある）	There's more than one way to skin a Kneazle.（ニーズルの皮をはぐには2つ以上の方法がある）
A leopard can't change its spot.（豹は自分の斑点を変えられない＝三つ子の魂百まで）	Poisonous toadstools don't change their spots.（毒キノコは斑点が変わらない）
Don't count your chickens before they are hatched.（ひなが孵る前に数を変えてはならない＝捕らぬ狸の皮算用）	Count your owls before they are delivered.（フクロウを送り出す前にその数を数えよ）
I'll eat my hat.（帽子を食べてやる＝どんなことでもする）	I'll eat my wand.（魔法の杖を食べてやる）

作中に隠された再生ことわざは、作家が読者に投げかけた仕掛けです。仕掛けの解明は、読者に託されています。読者が仕掛けに気付かず、その個所を読み飛ばしてしまっては、作家の目算は外れます。一方、読者が作家の仕掛けを解明した時、作家と読者との間に、ひそやかな交流が生まれます。

小説・詩・漫画・映画のタイトル・新聞の見出しなど、世界は再生ことわざで溢れています。再生ことわざは裏の意味を秘めており、暗号（*code*）と考えることができます。再生ことわざを制作する作業を符号化（*encode*）と呼ぶとすれば、再生ことわざを解釈する作業は復号化（*decode*）と言うことができるでしょう。

コラム　制作のヒント

Q　英語のことわざを知るには、どうすればよいですか？

A　ことわざ関連のサイトは沢山ありますが、*The Phrase Finder* は、680 のことわざの意味と由来を詳説しています。最近日本で出版されたことわざ辞典には、山田雅重『日英ことわざ文化事典』(2017. 丸善出版)、ジェニファー・スピーク編『オックスフォード英語ことわざ・名言辞典』(2017. 柊風舎)、安藤邦夫『ことわざから探る英米人の知恵と考え方』(2018. 開拓社) があります。

Q　脚韻を踏む語を探すには、どうすればよいですか？

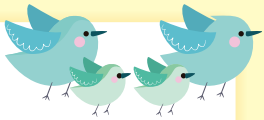
A　『英語学習逆引辞典』（1968. 開文社）や『プログレッシブ英語逆引き事典』（1996. 小学館）を使うと、単語の後ろから検索することができます。電子辞書の後方参照機能を使う方法もあります。たとえば、*????ness* と入力すると、*-ness* の前に４つの綴り字が来る単語（*darkness, easiness, kindness, sameness* など ）が一覧できます。ただし、この機能を有さない製品もあります。

Q　ある概念を表す単語が思いつかない場合、どうすればよいですか？

A　ある語と同じ意味を有する語を、類義語（*synonym*）と言います。それを専らに扱う辞書が、類義語辞典（*thesaurus*）です。『英語類義語使い分け辞典』(2006. 研究社) で「におい」の項目を見ると、*smell, scent, odor, aroma, perfume, fragrance, redolence* という語が列挙されています。一つの文書に同じ語が反復するのを避けるため、欧米の知識人は類義語辞典を多用します。

Q　自然な単語の配列を知るには、どうすればよいですか？

A　語と語の自然なつながりを、連語 (*collocation*) と言います。それを専らに扱う辞書が、連語辞典です。そこには、第２言語学習者が予想しにくい連語の情報が提示されています。『小学館オックスフォード英語コロケーション辞典』(2015. 小学館) の *election*(選挙) の項目、「（選挙を）行う」を意味する動詞のリストを見ると、*conduct, have, hold, run, call* と示されています。



第 16 節　薬とことわざ

メフィストフェレス　「例の評判の薬を一杯もらいたいのだ。だがな、一番古い奴が欲しいのだ。年数がたつほど、効き目が強いからな。」　ゲーテ『ファウスト』

薬とことわざは、共に、回復作用があります。薬は体、ことわざは心の復調を目指します。鎮痛剤は、歯・腰・頭・喉などの痛みを和らげます。*Better late than never*（遅れてもやらないよりはまし）という言葉は、好機を逸した人を激励します。

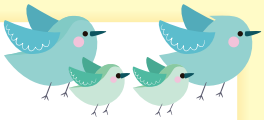
共に、熱心な愛好者がいます。正露丸・龍角散・仁丹などを常備薬にし、日常生活や旅先で服用する人がいます。「一期一会」「敬天愛人」「則天去私」などを座右の銘にし、会社や自宅の壁に掲げる人がいます。

共に、緊急時･重大時に活躍します。ハブやマムシに咬まれた人には血清が、インフルエンザ予防のためにはワクチンが投与されます。受験・結婚・出産を控えた人は、「合格祈願」「良縁祈願」「安産祈願」の護符を求めます。

共に、相反する効果を持つ場合があります。血圧を上げる薬と下げる薬が存在します。*Too many cooks spoil the broth*（料理人が多いとスープを駄目にする）は、人手の多さを戒めますが、*many hands make the light work*（手助けする人が多いと仕事が楽になる）は、それを推奨します。

共に、世界最古の文明に記録が残っています。メソポタミア文明では、粘土板に楔形文字が筆記されました。粘土板には、数多くの薬用植物名と、「開けた口にはハエが入ってくる（＝油断大敵）」など、あまたのことわざが刻まれました。

共に、環境の変化に応じ新造品が創られます。病気に対する新薬は、時々刻々と開発されています。コンピュータの普及に伴い、*garbage in, garbage out*（不正確な入力は、不正確な出力を生む）など、新しいことわざが次々と創られています。



第 17 節　古民家とことわざ

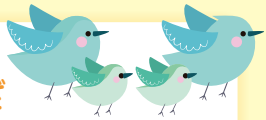
メフィストフェレス　「『時』の力が働いて、初めて霊妙な発酵物ができるんです」
ゲーテ『ファウスト』

古民家とことわざは、共に、格調と風格のある素材が使われます。古民家では、太くて黒光りのする梁や、古色蒼然とした柱が建材として使われます。ことわざも、*brevity is the soul of wit*（簡潔さは知恵の髄）<シェイクスピア>など、由緒ある聖典や文学を典拠とするものがたくさんあります。

共に、人の心に訴えます。古民家に入ると、気持ちが安らぎます。明かり・囲炉裏・家具・土壁を見つめるだけで、はるか昔に戻ったような静穏な気持になります。ことわざも同様です。*Life is not all beer and skittles*（人生はビールとボーリング遊びだけではない）などの先達の言葉を通し、諦念と慰藉を実感することができます。

共に、実社会で使われてこそ命脈を保ちます。耐震性・断熱性・気密性の観点から、古民家の居住性が査定されます。同様に、昨今の人権意識に照合し、表現の妥当性が判定されます。*Biting and scratching is Scots folk's wooing*（噛みつく、引っかくは、スコットランド人の求愛法である）、*the only good Indian is a dead Indian*（唯一の善良なインディアンは、死んだインディアンである）などは、差別的表現なので避けるべきです。

共に、再生可能（*recyclable*）です。古民家は、骨組みを残し、間取り・機能・デザインを刷新し、現代の生活様式に合うように改修されます。ことわざも、基本構造を維持し、語彙を置換し、表現が変革されます。*A penny saved is a penny earned*（1 ペニーの節約は 1 ペニーの儲け）は、*a penny saved is a penny taxed*（1 ペニーの節約は 1 ペニーの課税）に変換され、*every dog has his day*（誰にでもいい時代はある）は、*every dogma has his day*（すべての信条には全盛期がある）に改変されました。



第 18 節　お守りとことわざ

メフィストフェレス　「さあ、ひとつやってみましょう。生きてる限りは、希望をもたなくちゃいかん。」　ゲーテ『ファウスト』

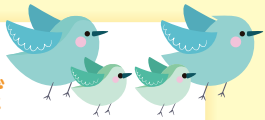
お守りとことわざには、数多くの共通点があります。①素朴である ②有史以前からある ③世界中にある ④誰でも使うことができる ⑤目的を有している ⑥非日常的である、など。両者の根底には、何があるのでしょうか。

初期人類は、自然災害・感染症・戦争・飢餓で難儀しました。この災厄を克服するため、彼らは草・木・骨・石などを超自然（＝神秘的な力）の分身とみなし、安心立命を祈願しました。また、占い師（shaman）の語る定型韻文（＝呪文・神託・呪詛・託宣など）を超自然の言葉とみなし、行動指針としました。お守りとことわざは、それらと同じ機能を有していると考えられます。

COVID-19 は、人間の脆弱さを露呈しました。さらに、死という不可避の宿命が待ち構えています。現代人は、初期人類と同様、不安と恐れから解放されていません。その時、無意識のうちに超自然の力に頼ります。

物理学者、ニールス・ボーア博士は、兎の足（＝幸運のお守り）を傍らに置きました。小惑星探査機「はやぶさ」の管制室には、「道中安全」のお札が安置されました。高岡関野神社では、妖怪「アマビエ」が描かれたお守りの入魂式が行われました。羽田空港 T3 には、自動販売機で絵馬を購入し、願い事を記して奉納する絵馬掛け所があります。ゴルフの宮里藍選手は、*where there is a will, there is a way*（志があるところに道がある）を座右の銘にしました。テニスの大坂なおみ選手は、スニーカーに *home is where the heart is*（家庭は心のよりどころ）と記しました。

人間が夢と希望を抱く限り、超自然の力は健在です。お守りとことわざは、魂を癒すもの（*soul healer*）なのです。



第 19 節　四つ葉のクローバーとことわざ

メフィストフェレス　「自信を持つことだ。そうすりゃ道は自然に開けてきます。」　ゲーテ『ファウスト』

かつて人類は、衣食住のすべてに渡り、厳しい環境の中で暮らしていました。これを乗り切るため、人間は呪術 (magic) を必要としました。呪術とは、種々の目的を達成するため、超自然に働きかける意図的な行為を言います。呪術は、未開社会だけでなく、現代社会にも広く認められます。それは、占い・祈祷・迷信・地鎮祭・姓名判断・家相・お御籤などを思い起こせば、明らかです。文明の進展いかんにかかわらず、呪術が世界中にみられるのは、人間が本質的に幸福を求めるからです。

四つ葉のクローバーを探すには、「必ずそこにある」という信念が不可欠です。すると感覚が研ぎ澄まされ、どんなクローバーの群落に遭遇しても、目指す物を見つけることができます。同様に、*after a storm comes a calm*（嵐の後に凪が来る）という言葉を肝に銘じれば、苦境にあっても事態の好転を期することができます。この表現は、構文と音声の両面において修辞的です。構文的には、主語が文末に倒置されています。音声的には、*comes* と *calm* が頭韻を踏み、*after* と *calm* が長母音 /ɑ:/ を共有します。さらに、強弱のリズム「●●●● / ●●●」が現れ律動的です。修辞を伴う言語は、非日常性を暗示します。

しばしば、言語の目的はコミュニケーションであると言われます。コミュニケーションとは、日常言語によって、人間と人間を横に結びつけることです。ところで、言語には、もう一つの大切な役目があります。それが呪術です。呪術とは、非日常言語によって、超自然と人間を縦につなぐことです。呪術としてのことわざの目的は、それを信じる人の人生を豊かにすることです。

あとがき

この小冊子を読み終えたら、早速、様々なことわざを渉猟し、ことわざの再生に挑戦してください。作品が完成したら、当コンテスト（下欄のウェブサイト参照）に応募することをお勧めします。制作した作品は、未来への文化遺産になるかもしれません。なぜなら、伝統は創造的行為を通して継承されるからです。

SHAPE IDEAS INTO SHAPE

上記の標語は、2019年度の標語"SHAPE ENGLISH INTO SHAPE"を再生したもので、「思いを研ぎ澄ませ、それに適った形を」という意味。最初と最後の単語が同一なのは、〈首尾同語〉の技法。

OTSUMA ENGLISH
Your Wish, with English.

発行者 / 大妻女子大学文学部英語英文学科
企画者 / APPT (Anti-Proverb Project Team)
URL: www.lit.otsuma.ac.jp/english/anti-proverb/
Email: otsuma.kotowaza@gmail.com
発行日 / 2023 年 5 月 1 日 (第 5 版)